

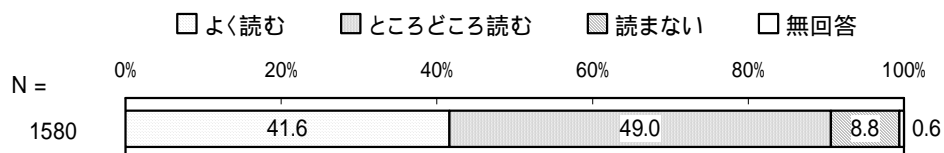
7 市政全般

7 - 1 「広報川越」の閲覧状況

「読む」は90.6%

問 46 あなたは、「広報川越」をご覧になりますか。(は1つ)

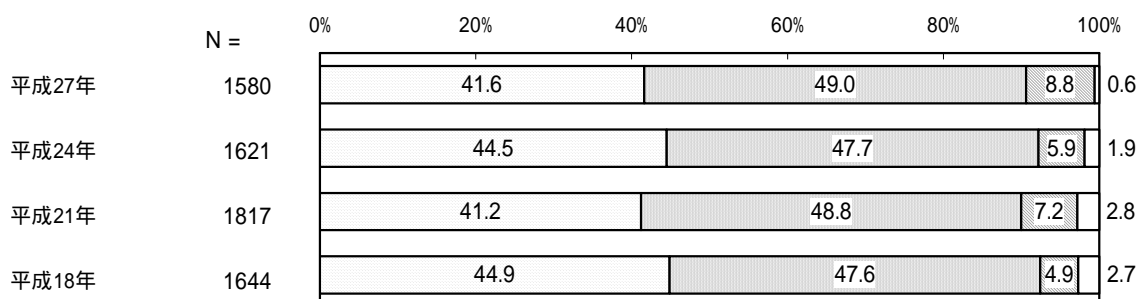
図 7 - 1 - 1



「広報川越」の閲覧状況をたずねたところ、「よく読む」(41.6%)と「ところどころ読む」(49.0%)を合わせた<読む>(90.6%)は90%を超えている。また、「読まない」は8.8%となっている。(図7-1-1)

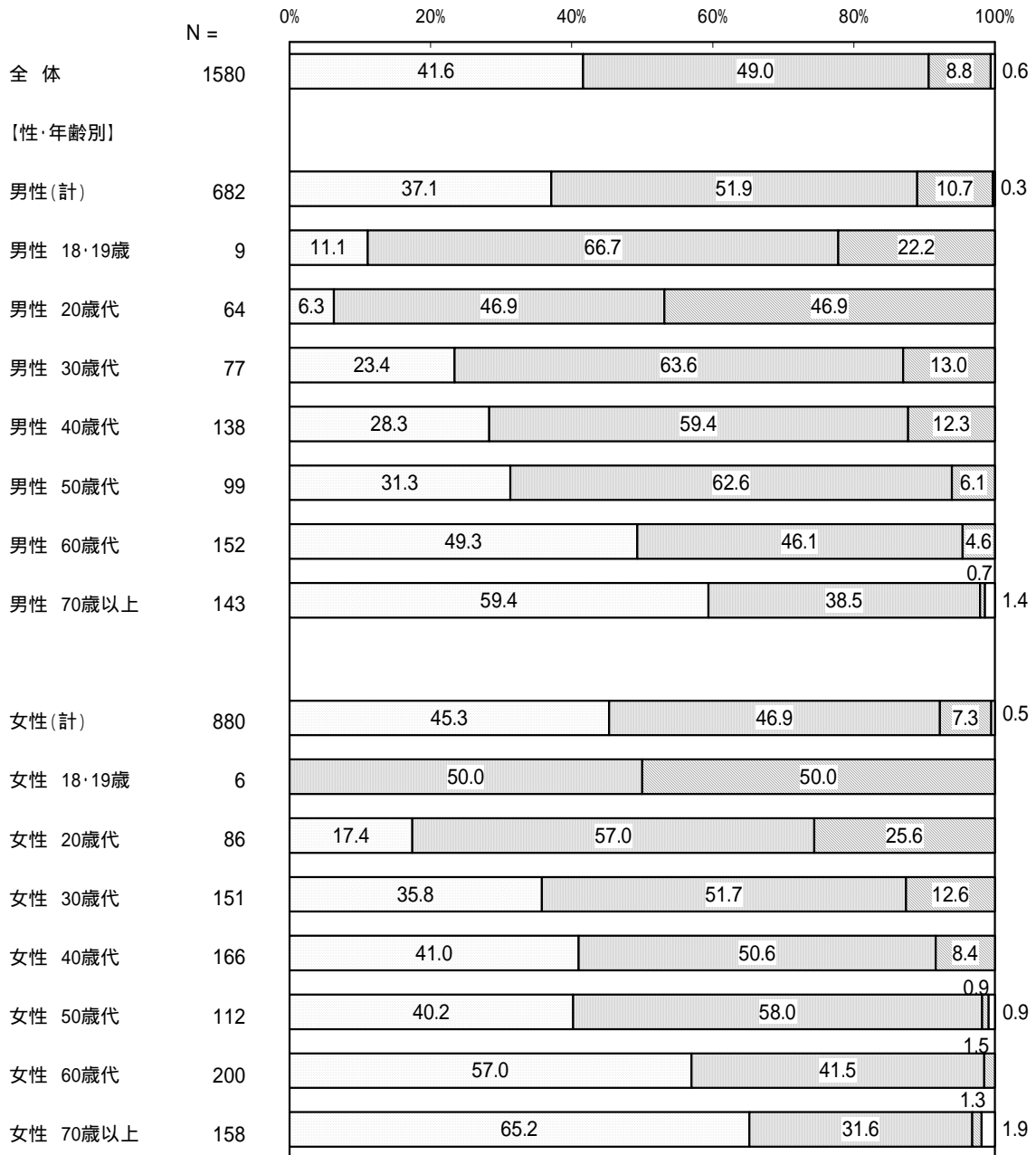
時系列でみると、大きな傾向の違いはみられない。(図7-1-2)

図 7 - 1 - 2 時系列 「広報川越」の閲覧状況



性・年齢別にみると、「よく読む」は高い年代ほど割合が高くなっており、女性 70 歳以上が 60% 半ば、男性 70 歳以上と女性 60 歳代がともに 60% 近くとなっている。「読まない」は男性 20 歳代が 50% 近くと多くなっている。(図 7 - 1 - 3)

図 7 - 1 - 3 性・年齢別 「広報川越」の閲覧状況

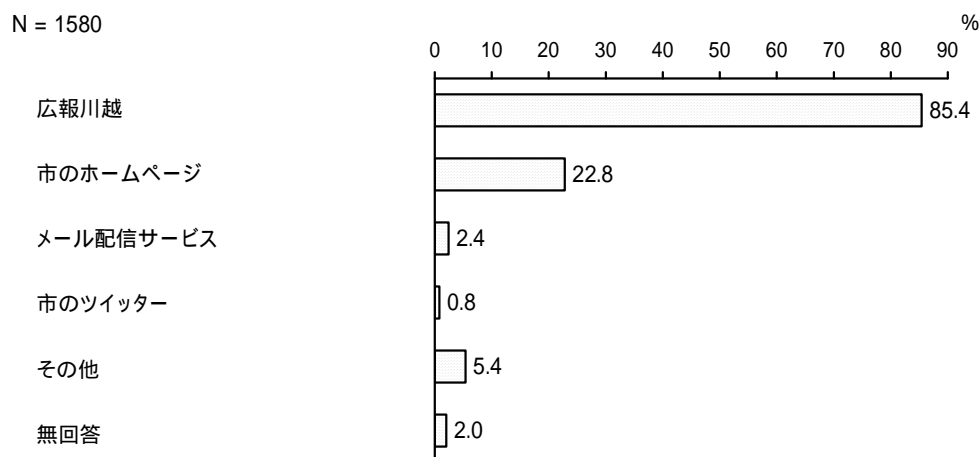


7 - 2 市の情報の入手方法

「広報川越」が85.4%

問47 あなたは、市の情報をどのような方法で取得していますか。(はいくつでも)

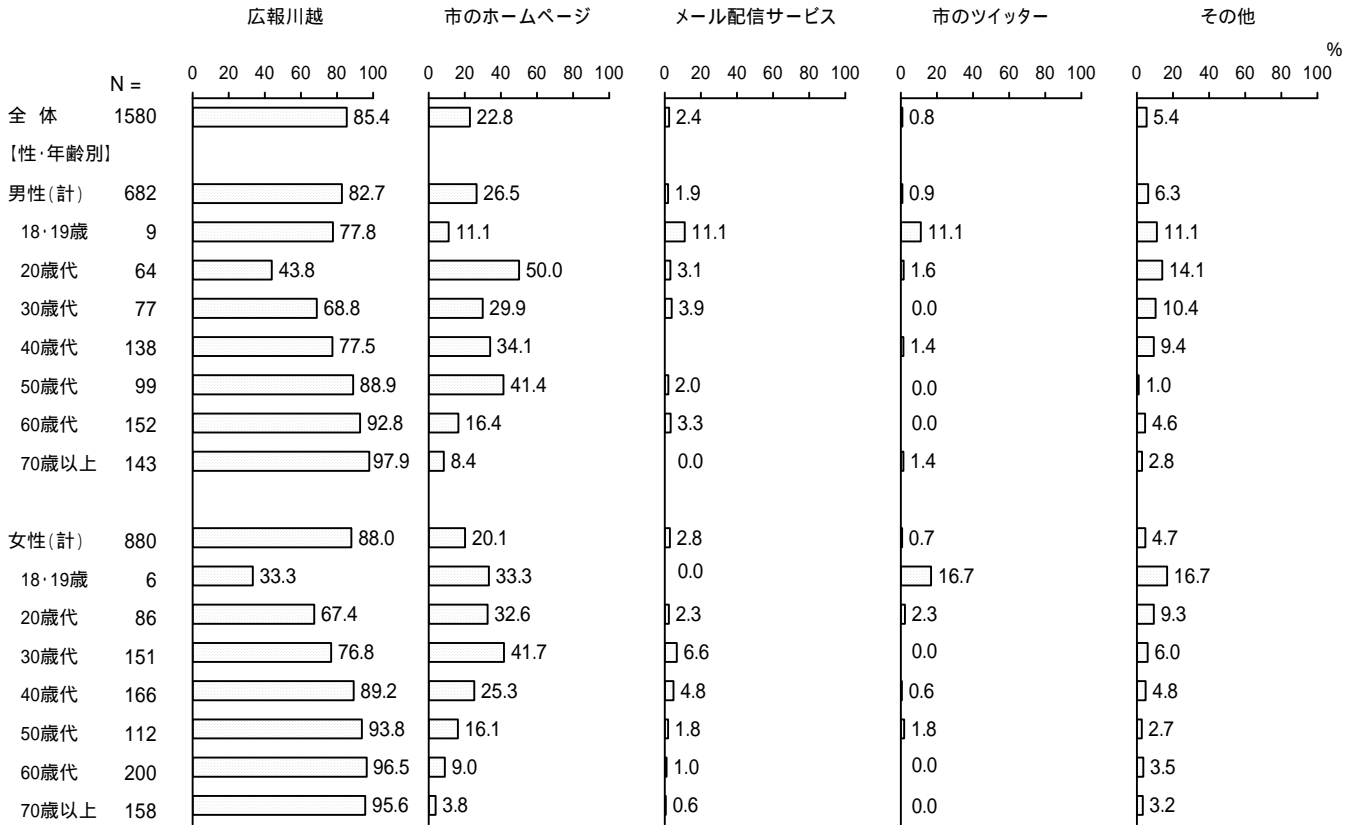
図7 - 2 - 1



市の情報の入手方法をたずねたところ、「広報川越」(85.4%)が最も多く、80%半ばとなっている。以下、「市のホームページ」(22.8%)、「メール配信サービス」(2.4%)、「市のツイッター」(0.8%)の順となっている。(図7 - 2 - 1)

性・年齢別にみると、「広報川越」は男性の60歳代以上、女性の50歳代以上の年代がいずれも90%台となっている。「市のホームページ」は女性30歳代、男性20歳代と50歳代が40%を超えて多くなっている。(図7-2-2)

図7-2-2

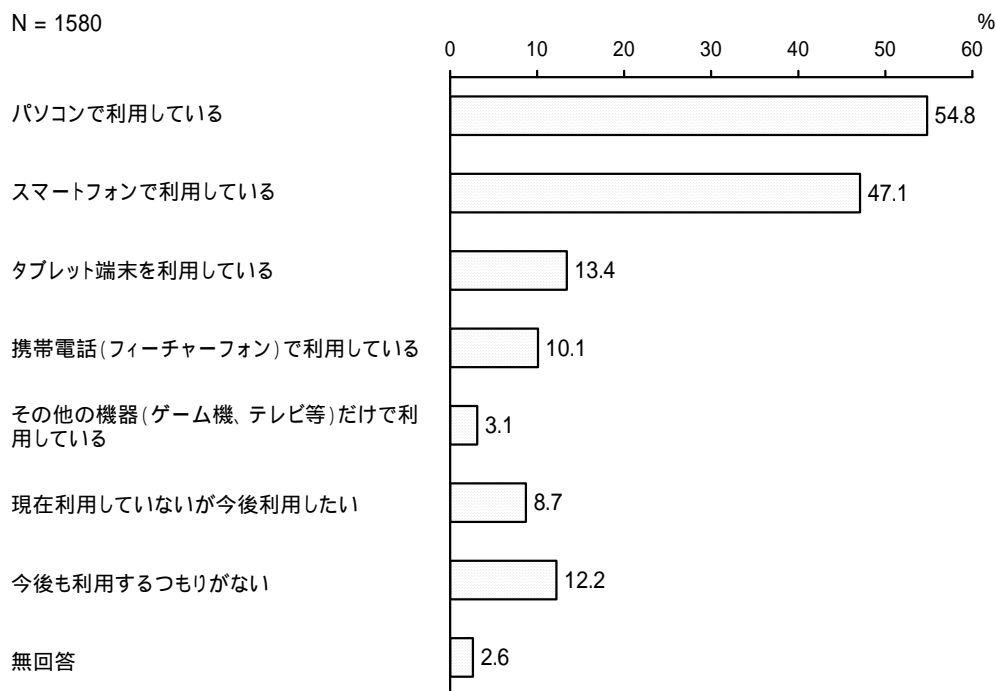


7 - 3 インターネット利用状況

<利用している>が76.5%

問 48 あなたは、自宅・職場・学校などでインターネットを利用していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(はいくつでも)

図 7 - 3 - 1

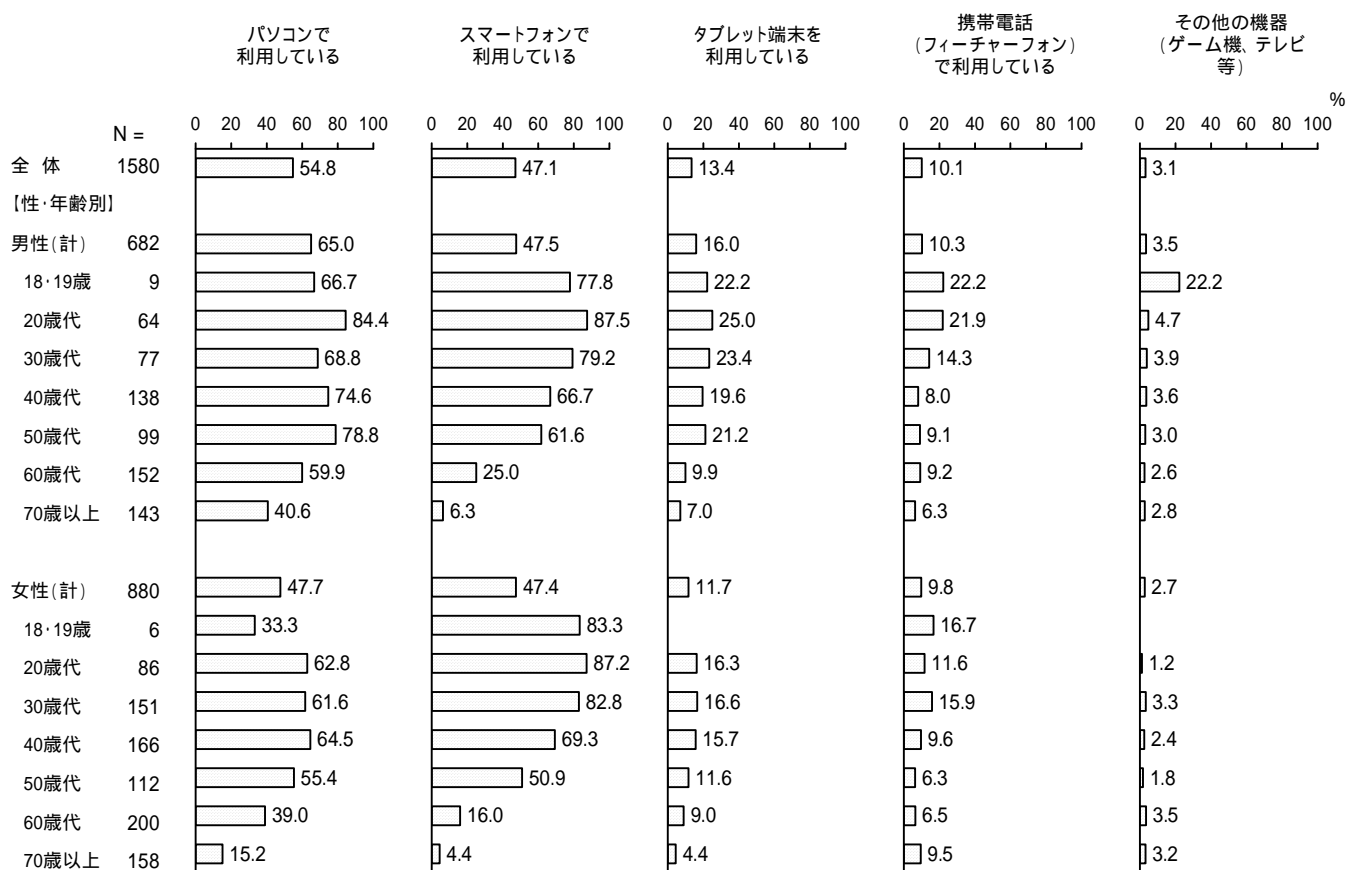


インターネットの利用状況をたずねたところ、「パソコンで利用している」(54.8%)が最も多く、50%半ばとなっている。以下、「スマートフォンで利用している」(47.1%)、「タブレット端末を利用している」(13.4%)、「携帯電話(フィーチャーフォン)で利用している」(10.1%)、「その他の機器(ゲーム機、テレビ等)だけで利用している」(3.1%)の順となっている。「現在利用していないが今後利用したい」と「今後も利用するつもりがない」、無回答を除いた<インターネットを利用している>は76.5%となっている。

また、「今後も利用するつもりがない」(12.2%)は10%を超えており、「現在利用していないが今後利用したい」(8.7%)は10%未満となっている。(図7-3-1)

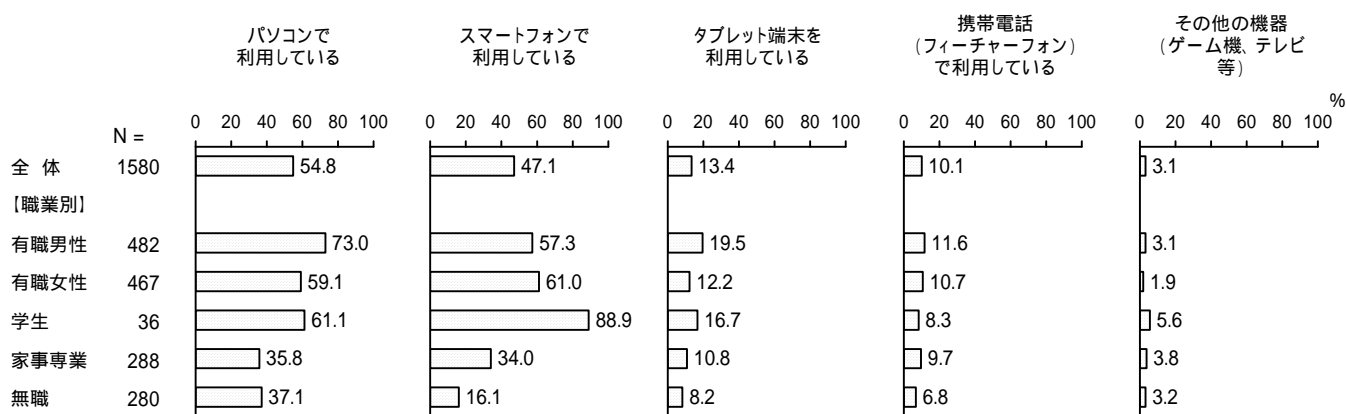
性・年齢別にみると、「スマートフォンで利用している」は年齢が低くなるにつれ利用している割合が高くなっている。「タブレット端末を利用している」は、男性20歳代、30歳代がともに20%を超えて多くなっている。(図7-3-2)

図7-3-2 性・年齢別 インターネット利用状況



職業別にみると、「パソコンで利用している」は有職男性が70%を超えており、「スマートフォンで利用している」は学生が90%近くとなっている。(図7-3-3)

図7-3-3 職業別 インターネット利用状況

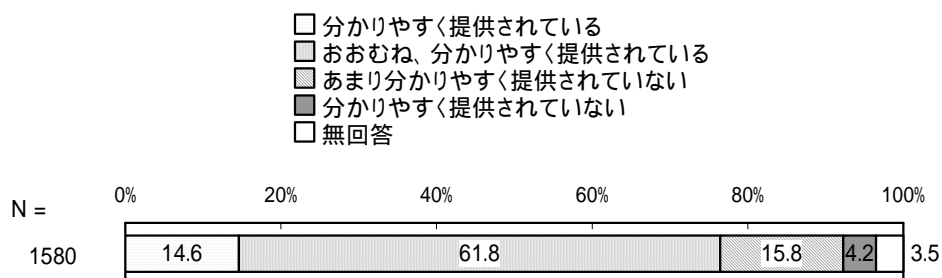


7 - 4 市の情報提供に対する満足度

<分かりやすく提供されている>が76.4%

問 49 あなたは、市の行政に関する情報提供について、分かりやすく提供されていると思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(は1つ)

図 7 - 4 - 1



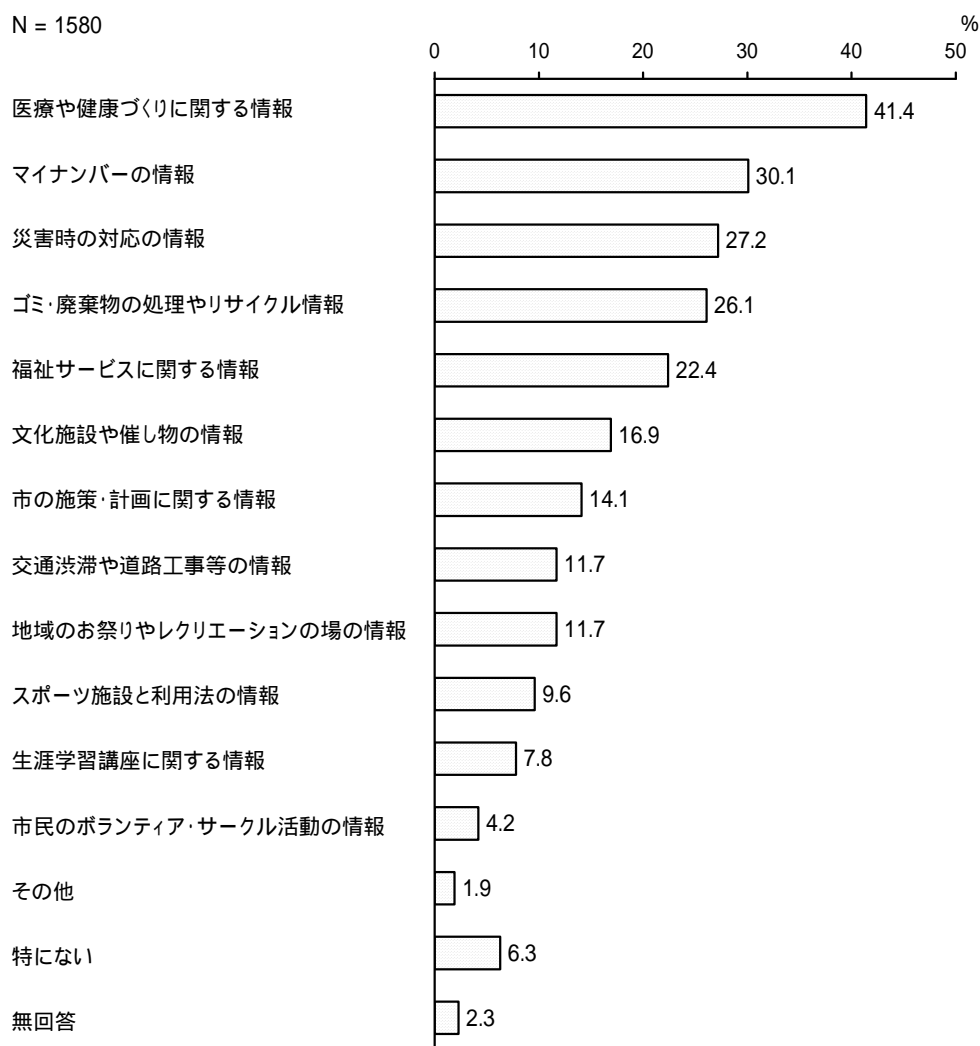
市の情報提供に対する満足度についてたずねたところ、「分かりやすく提供されている」(14.6%)と「おおむね、分かりやすく提供されている」(61.8%)をあわせた<分かりやすく提供されている>(76.4%)が70%半ばとなっている。(図7 - 4 - 1)

7 - 5 必要な市の行政情報

「医療や健康づくりに関する情報」が41.4%

問 50 あなたが今必要としている市からの情報は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

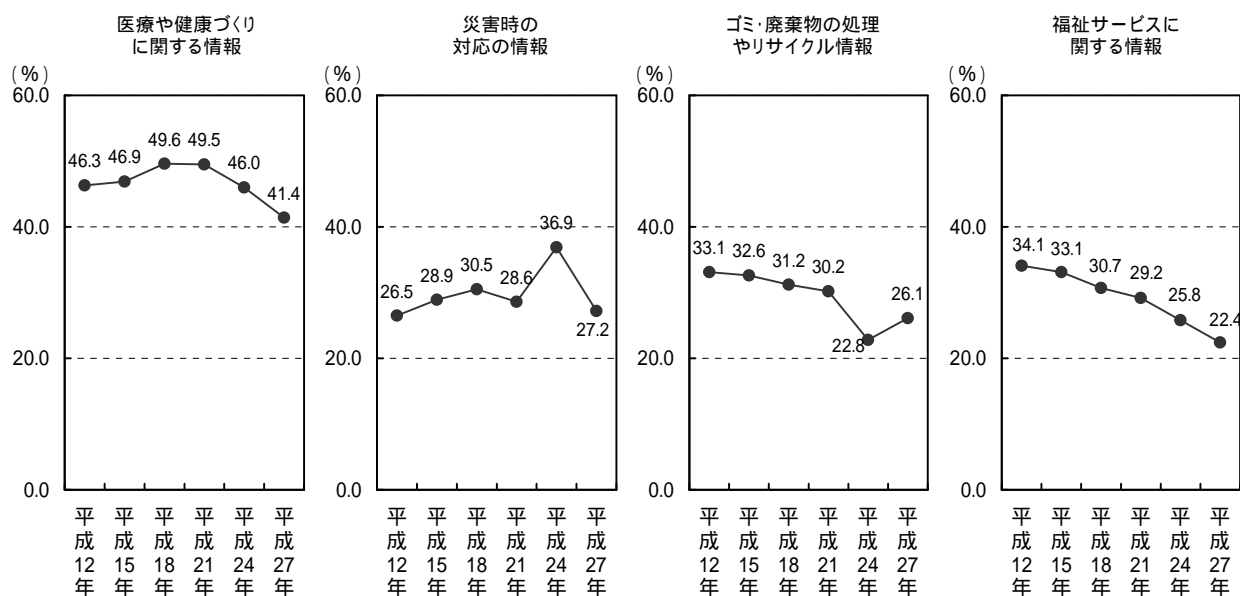
図 7 - 5 - 1



必要な市の行政情報をたずねたところ、「医療や健康づくりに関する情報」(41.4%)が最も多く、40%を超えている。以下、「マイナンバーの情報」(30.1%)、「災害時の対応の情報」(27.2%)、「ゴミ・廃棄物の処理やリサイクル情報」(26.1%)、「福祉サービスに関する情報」(22.4%)などの順となっている。(図7-5-1)

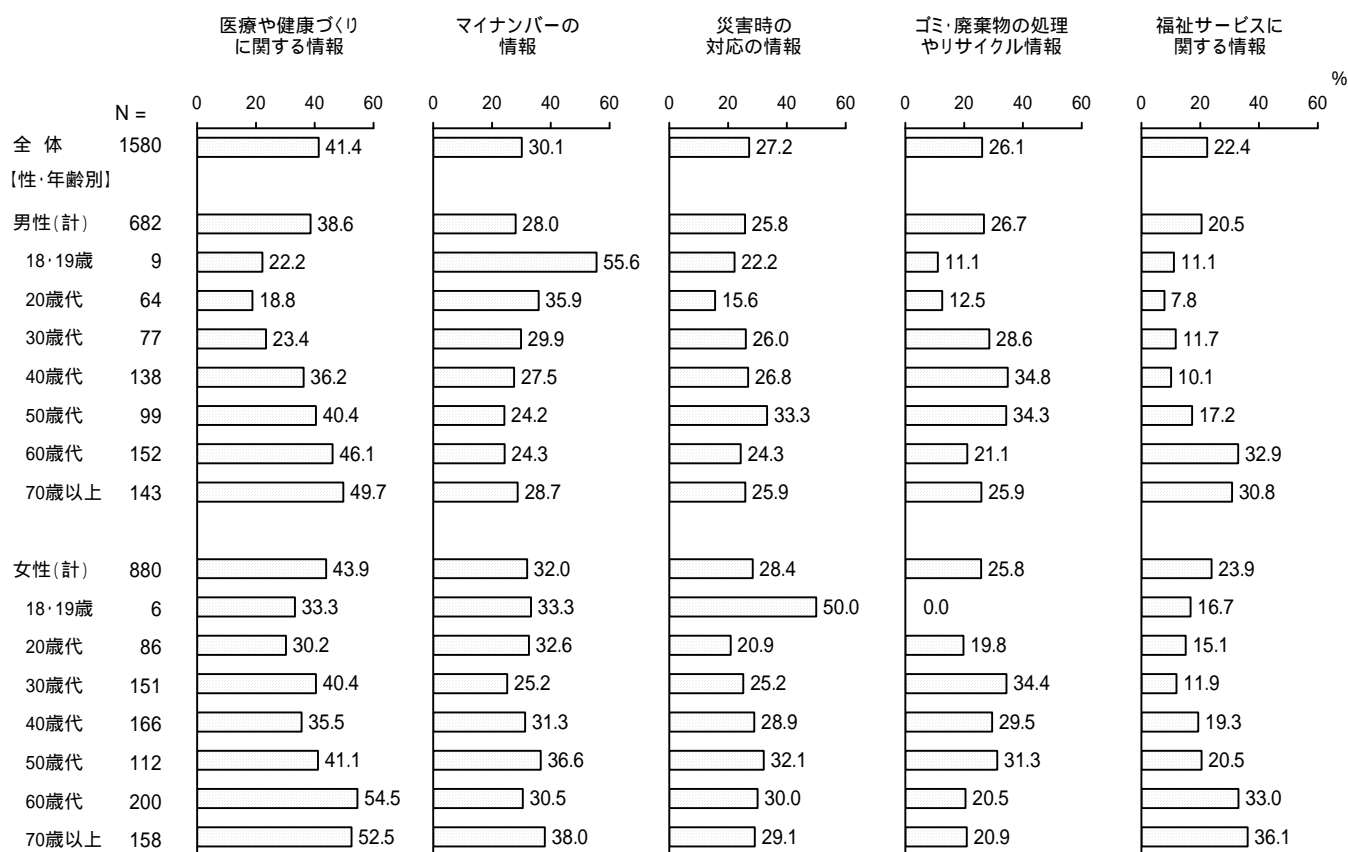
「マイナンバーの情報」を除く上位4項目について時系列でみると、「災害時の対応の情報」は前回調査と比べて9.7ポイント減少している。一方、「ゴミ・廃棄物の処理やリサイクル情報」は前回調査と比べて3.3ポイント増加している。「福祉サービスに関する情報」は減少傾向となっている。(図7-5-2)

図7-5-2 時系列 必要な市の行政情報



上位5項目を性・年齢別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」はおおむね年齢がたかくなるにつれ割合が高くなっている。「福祉サービスに関する情報」は男女とも60歳代と70歳以上が30%を超えて多くなっている。(図7-5-3)

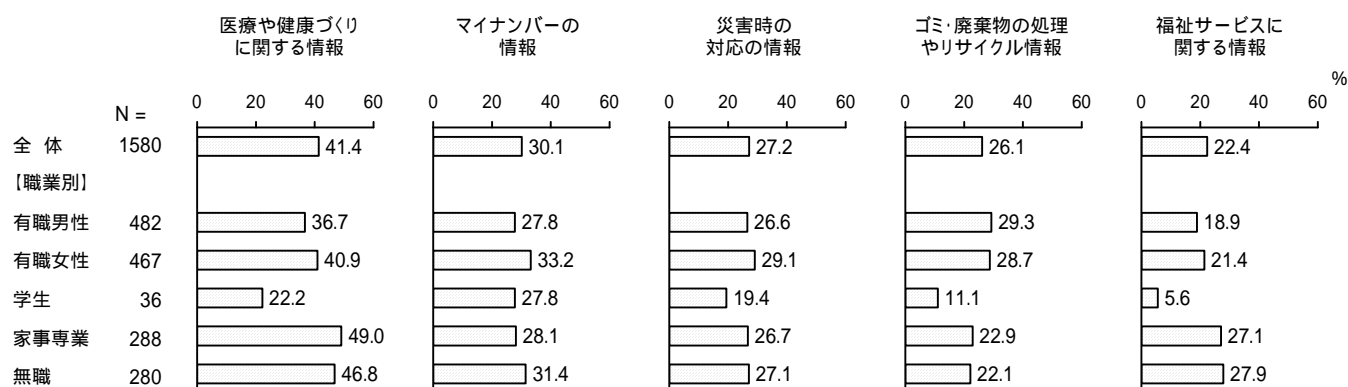
図7-5-3 性・年齢別 必要な市の行政情報



上位5項目を職業別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」は家事専業、無職が50%近くとなっている。「ゴミ・廃棄物の処理やりサイクル情報」は有職男性、有職女性が30%近くとなっている。「福祉サービスに関する情報」は家事専業、無職が30%近くとなっている。

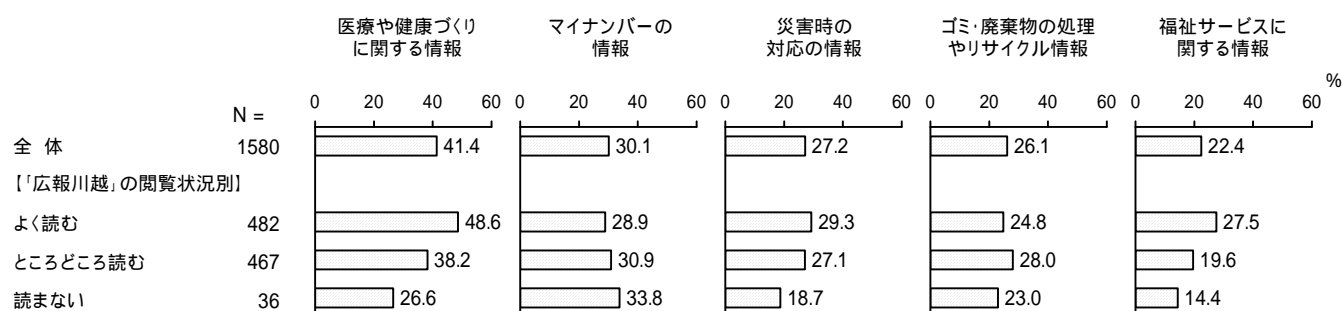
(図7-5-4)

図7-5-4 職業別 必要な市の行政情報



上位5項目を「広報川越」の閲覧状況(問46・155ページ参照)別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」、「災害時の対応の情報」、「福祉サービスに関する情報」の各項目は、「広報川越」の閲覧頻度が高い人ほど割合が高くなる傾向にある。また、「マイナンバーの情報」は「広報川越」の閲覧頻度が低い人ほど割合が高くなる傾向にある。(図7-5-5)

図7-5-5 「広報川越」の閲覧状況別 必要な市の行政情報

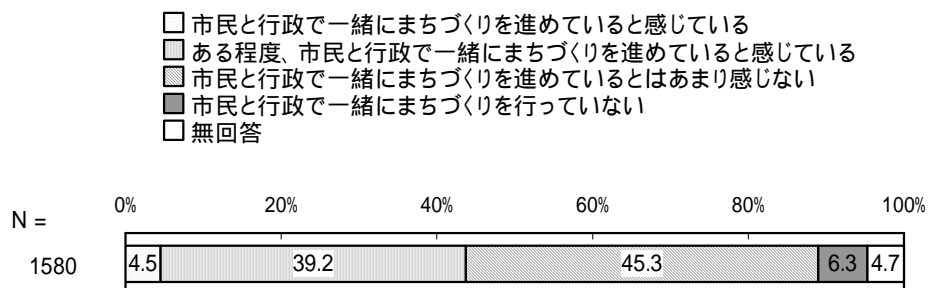


7 - 6 市民・行政が協働したまちづくりの実感

「市民と行政と一緒にまちづくりを進めているとはあまり感じない」が45.3%

問 51 市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(は1つ)

図 7 - 6 - 1



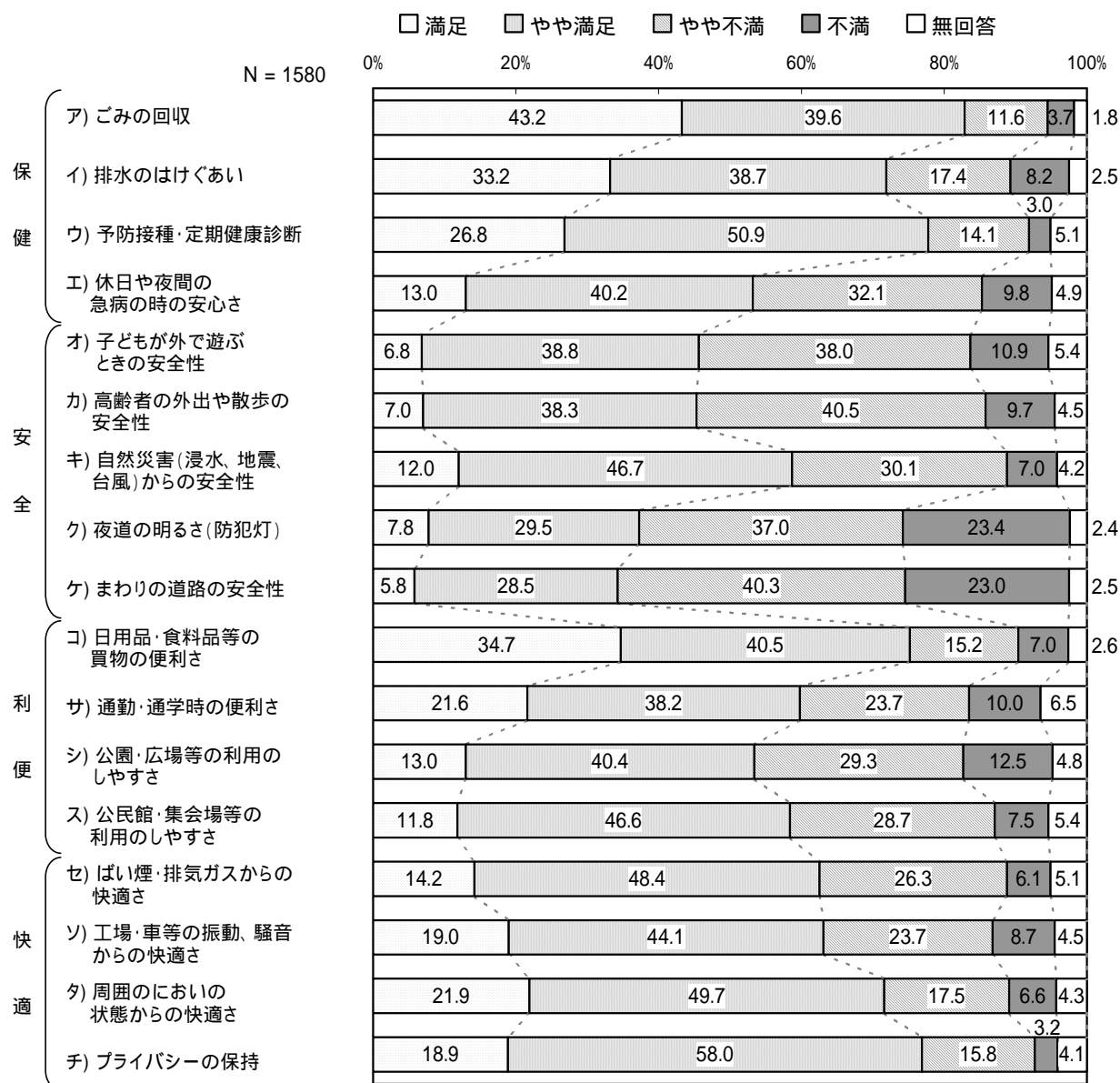
市民・行政が協働したまちづくりの実感をたずねたところ、「市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じている」(4.5%)と「ある程度、市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じている」(39.2%)を合わせた<市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じている>は43.7%、「市民と行政と一緒にまちづくりを進めているとはあまり感じない」(45.3%)と「市民と行政と一緒にまちづくりを行っていない」(6.3%)を合わせた<市民と行政と一緒にまちづくりを行っていない>は51.6%となっている。(図7 - 6 - 1)

7 - 7 地域の生活環境の満足度

17項目中13項目で<満足>が<不満>を上回る

問52 あなたの住んでいる地域の生活環境について、どのように感じていますか。ア)～チ)の項目ごとに1つずつ選んでください。(は1つずつ)

図7-7-1



地域の生活環境の満足度をたずねたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた<満足>の割合は、〔保健〕の分野では『ごみの回収』(82.8%)が最も多く、80%を超えている。

〔利便〕の分野では、『日用品・食料品等の買物の便利さ』(75.2%)が最も多く、70%を超えている。

〔快適〕の分野では、『プライバシーの保持』(76.9%)が最も多く、70%を超えている。

一方、〔安全〕の分野では、「満足」と「やや満足」を合わせた<満足>の割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた<不満>の割合を上回るのは、『自然災害(浸水、地震、台風)からの安全性』(58.7%)のみとなっている。<不満>は、『まわりの道路の安全性』(63.3%)が最も多く、60%を超えている。(図7-7-1)

この質問では、項目間の比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、各項目の評価点を算出した。

$$\text{評価点} = \frac{(\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + [\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})] + [\text{「不満」} \times (-2 \text{点})]}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、評価点は - 2.00 点 ~ + 2.00 点の間に分布し、0.00 点が中間点であり、+ 2.00 点に近いほど評価が良く、逆に - 2.00 点に近いほど評価が悪いことになる。

評価点を地区別にみると、〔保健〕の分野では、『休日や夜間の急病の時の安心さ』以外の3つの項目では、11地区すべてで評価点が0.00以上となっている。『休日や夜間の急病の時の安心さ』で評価点が0.00未満となっているのは、高階地区、川鶴地区、名細地区である。

〔安全〕の分野では、『子どもが外で遊ぶときの安全性』の評価点が0.00以上となっているのは芳野地区、古谷地区、南古谷地区、大東地区、霞ヶ関地区、川鶴地区である。『高齢者の外出や散歩の安全性』の評価点が0.00以上となっているのは芳野地区、古谷地区、南古谷地区、大東地区、川鶴地区となっている。『自然災害（浸水、地震、台風）からの安全性』は、南古谷地区以外の11地区の評価点が0.00以上となっている。『夜道の明るさ（防犯灯）』はすべての地区が0.00以下となっており、特に芳野地区の評価点は-1.19と低くなっている。『まわりの道路の安全性』でもすべての地区の評価点が0.00以下となっている。

〔利便〕の分野では、『日用品・食料品等の買物の便利さ』は芳野地区以外のすべての地区の評価点が0.00以上となっており、また評価点の最高と最低の差が1.60で、地域差が最も大きい。『通勤・通学時の便利さ』は芳野地区、古谷地区、福原地区以外の9地区の評価点が0.00以上となっており、また評価点の最高と最低の差が1.24で、地域差が大きい。『公園・広場等の利用のしやすさ』は、本庁地区、高階地区、福原地区、名畑地区、山田地区以外の7地区で評価点が0.00以上となっており、また評価点の最高と最低の差が1.28で、地域差が大きい。『公民館・集会場等の利用のしやすさ』は、福原地区以外の11地区の評価点が0.00以上となっている。

〔快適〕の分野では、『ばい煙・排気ガスからの快適さ』、『工場・車等の振動、騒音からの快適さ』はすべての地区の評価点が0.00以上となっている。『周囲のにおいの状態からの快適さ』は芳野地区を除く11地区で評価点が0.00以上となっている。『プライバシーの保持』はすべての地区で評価点が0.00以上となっている。

ア)からチ)までのすべての回答を足し合わせた総合評価点は、すべての地区で評価点が0.00以上となっており、最も評価点が高いのは川鶴地区、霞ヶ関北地区(0.51)となっている。

(表7-7-1)

表 7 - 7 - 1

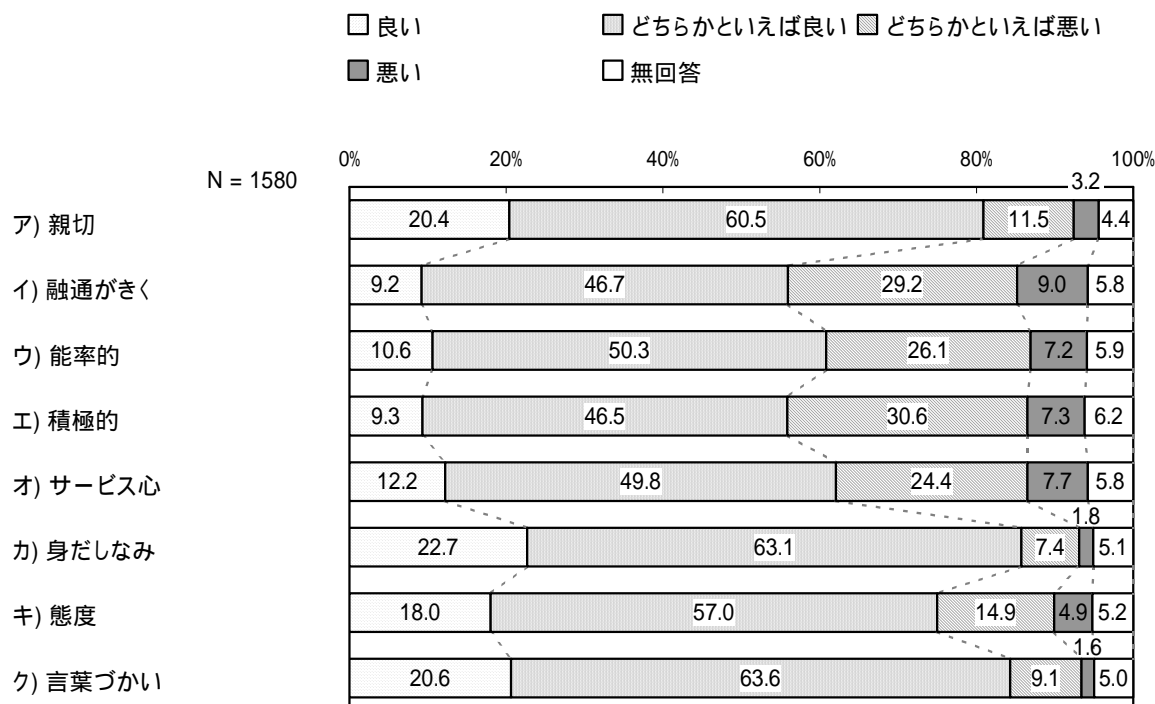
項目		地区												評価点の最高と最低の差	
		市全体	本庁地区	芳野地区	古谷地区	南古谷地区	高階地区	福原地区	大東地区	霞ヶ関地区	川鶴地区	霞ヶ関北地区	名細地区		山田地区
保健	ア)ごみの回収	1.09	1.18	0.83	0.89	1.02	1.11	1.12	1.24	1.05	0.89	0.94	1.13	1.16	0.41
	イ)排水のはけぐあい	0.73	0.99	0.38	0.50	0.60	0.35	0.41	0.90	0.96	0.83	1.17	0.49	0.47	0.82
	ウ)予防接種・定期健康診断	0.89	0.97	0.80	0.88	0.84	0.69	0.87	0.96	1.05	1.00	0.71	0.74	0.89	0.36
	エ)休日や夜間の急病の時の安心さ	0.15	0.23	0.38	0.29	0.25	-0.02	0.27	0.22	0.12	-0.04	0.02	-0.06	0.27	0.44
安全	オ)子どもが外で遊ぶときの安全性	-0.08	-0.20	0.36	0.14	0.04	-0.23	-0.06	0.01	0.00	0.23	-0.25	-0.12	-0.21	0.61
	カ)高齢者の外出や散歩の安全性	-0.08	-0.14	0.21	0.07	0.04	-0.19	-0.08	0.02	-0.04	0.02	-0.14	-0.17	-0.17	0.40
	キ)自然災害(浸水、地震、台風)からの安全性	0.28	0.51	0.14	0.11	-0.02	0.09	0.10	0.40	0.56	0.12	0.24	0.15	0.16	0.58
	ク)夜道の明るさ(防犯灯)	-0.40	-0.10	-1.19	-0.48	-0.66	-0.42	-0.70	-0.38	-0.39	-0.15	-0.14	-0.70	-0.69	1.09
	ケ)まわりの道路の安全性	-0.47	-0.36	-0.69	-0.48	-0.48	-0.62	-0.74	-0.51	-0.43	-0.15	-0.22	-0.65	-0.53	0.59
利便	コ)日用品・食料品等の買物の便利さ	0.83	1.30	-0.26	0.31	1.20	0.72	0.19	0.61	0.82	1.07	1.34	0.15	0.77	1.60
	サ)通勤・通学時の便利さ	0.40	0.86	-0.38	-0.15	0.19	0.45	-0.01	0.44	0.27	0.46	0.67	0.21	0.21	1.24
	シ)公園・広場等の利用のしやすさ	0.13	-0.05	0.17	0.05	0.17	-0.06	-0.16	0.44	0.33	0.93	0.65	-0.08	-0.35	1.28
	ス)公民館・集会場等の利用のしやすさ	0.28	0.18	0.55	0.08	0.40	0.33	-0.01	0.34	0.27	0.66	0.59	0.34	0.05	0.67
快適	セ)ばい煙・排気ガスからの快適さ	0.40	0.36	0.43	0.42	0.28	0.55	0.15	0.33	0.63	0.46	0.64	0.47	0.08	0.56
	ソ)工場・車等の振動、騒音からの快適さ	0.43	0.38	0.43	0.41	0.12	0.64	0.32	0.36	0.61	0.66	0.73	0.46	0.08	0.65
	タ)周囲のにおいの状態からの快適さ	0.66	0.83	-0.05	0.35	0.12	0.96	0.20	0.76	0.73	0.87	0.94	0.73	0.22	1.01
	チ)プライバシーの保持	0.77	0.79	0.71	0.71	0.69	0.79	0.51	0.79	0.91	0.83	0.82	0.73	0.72	0.40
総合評価点		0.35	0.46	0.17	0.24	0.29	0.30	0.14	0.41	0.44	0.51	0.51	0.23	0.19	0.37

7 - 8 市職員のイメージについて

評価が最も高いのは「身だしなみ」

問 53 市役所職員のイメージについてどう思いますか。それぞれのイメージについて評価してください。(は1つずつ)

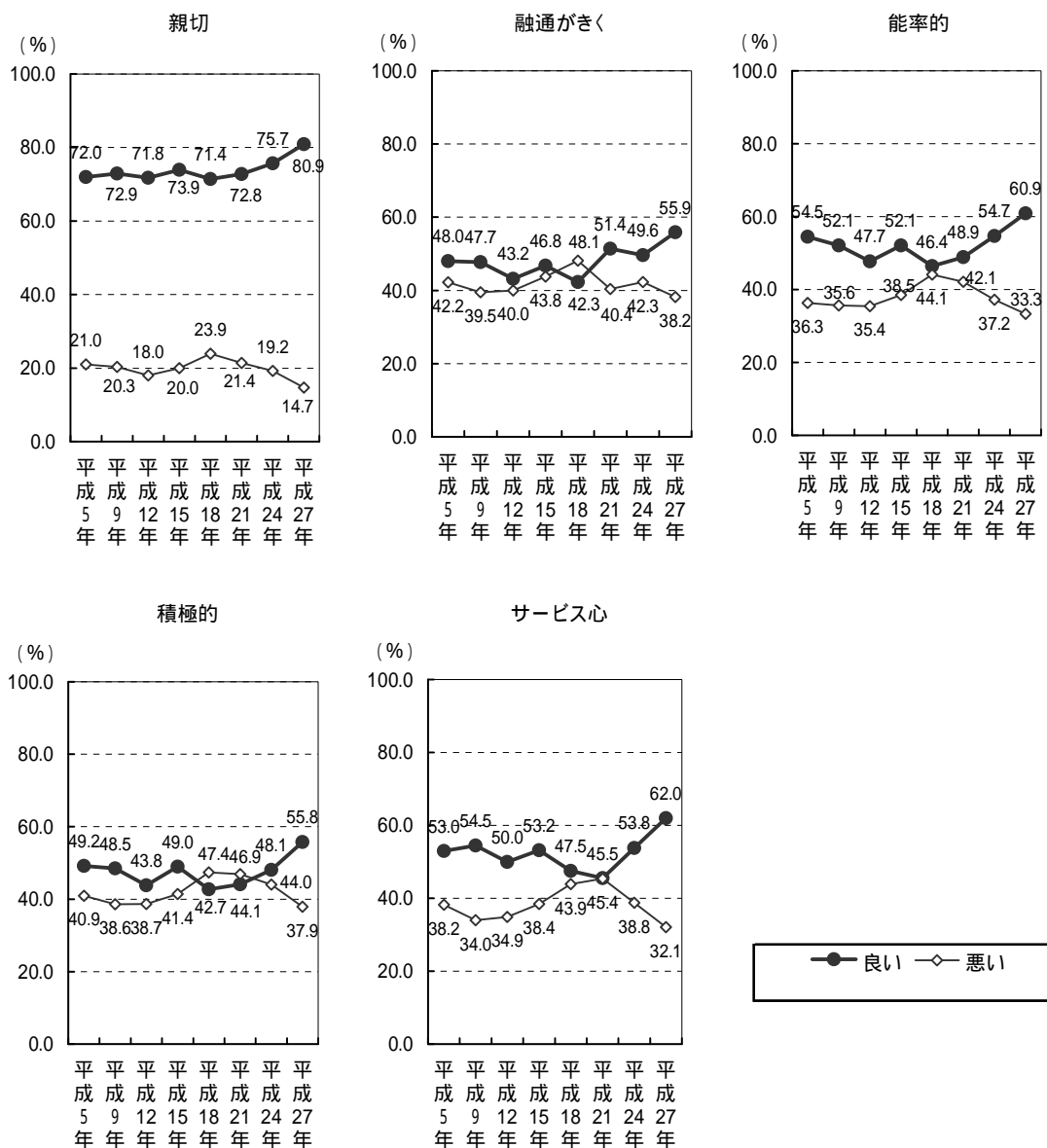
図 7 - 8 - 1



市職員のイメージについて、5項目に分けて評価をたずねたところ、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた＜良い＞の割合は、『身だしなみ』（85.8%）が最も多く、80%半ばとなっている。以下、『言葉づかい』（84.2%）、『親切』（80.9%）、『態度』（75.0%）、『サービス心』（62.0%）、『能率的』（60.9%）、『融通がきく』（55.9%）、『積極的』（55.8%）の順となっている。（図7 - 8 - 1）

平成 24 年以前の調査と共通の 5 項目について時系列でみると、＜良い＞の割合はすべての項目が前回調査と比べて増加しており、特に『サービス心』が 8.2 ポイント、『積極的』が 7.7 ポイント、それぞれ増加している。(図 7 - 8 - 2)

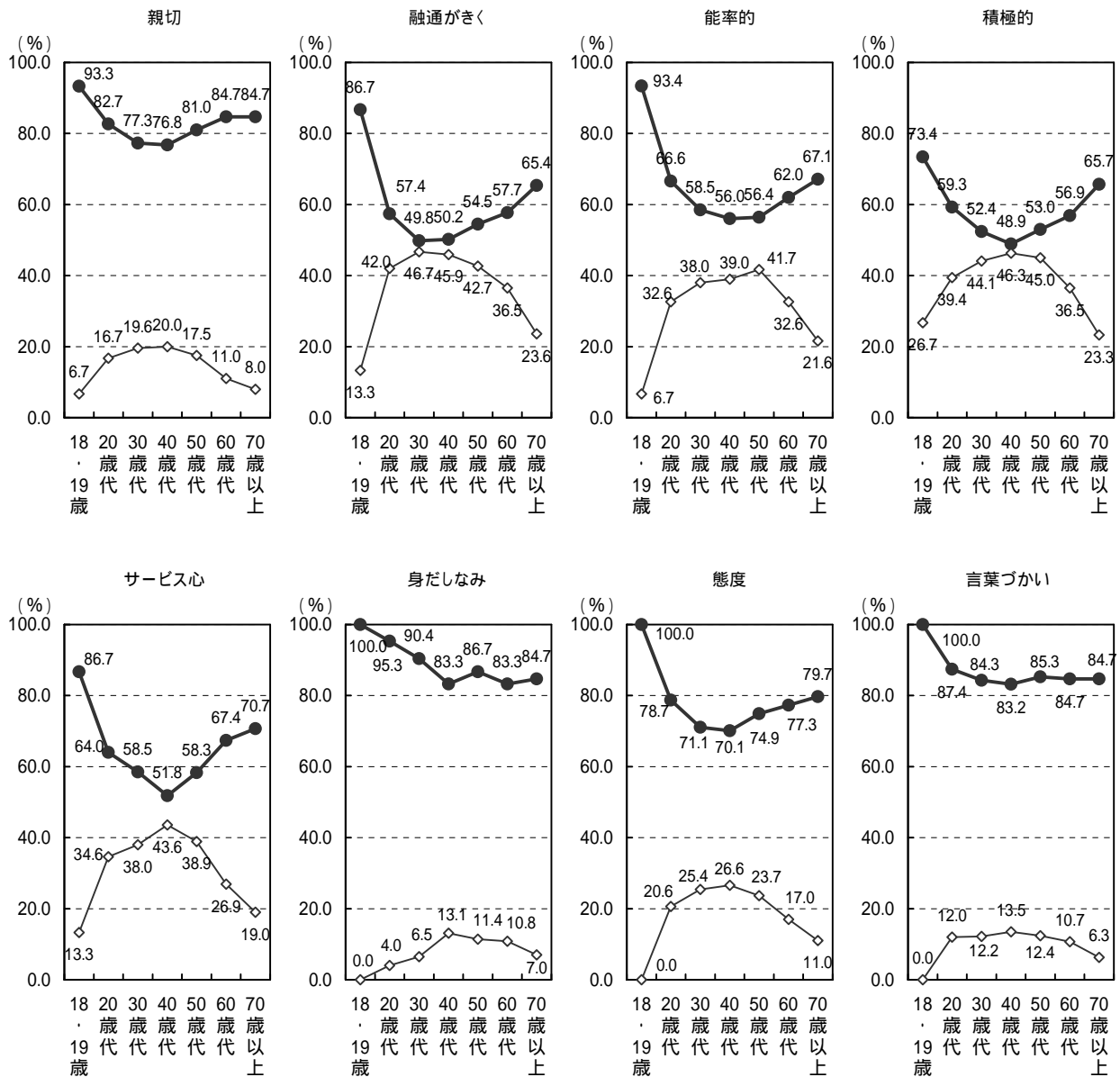
図 7 - 8 - 2 時系列 市職員のイメージについて



年齢別にみると、『身だしなみ』を除くすべての項目で、＜良い＞の割合は、40歳代以上の年代で年齢が高くなるにつれ割合が高くなっている。

(図7-8-3)

図7-8-3 年齢別 市職員のイメージについて



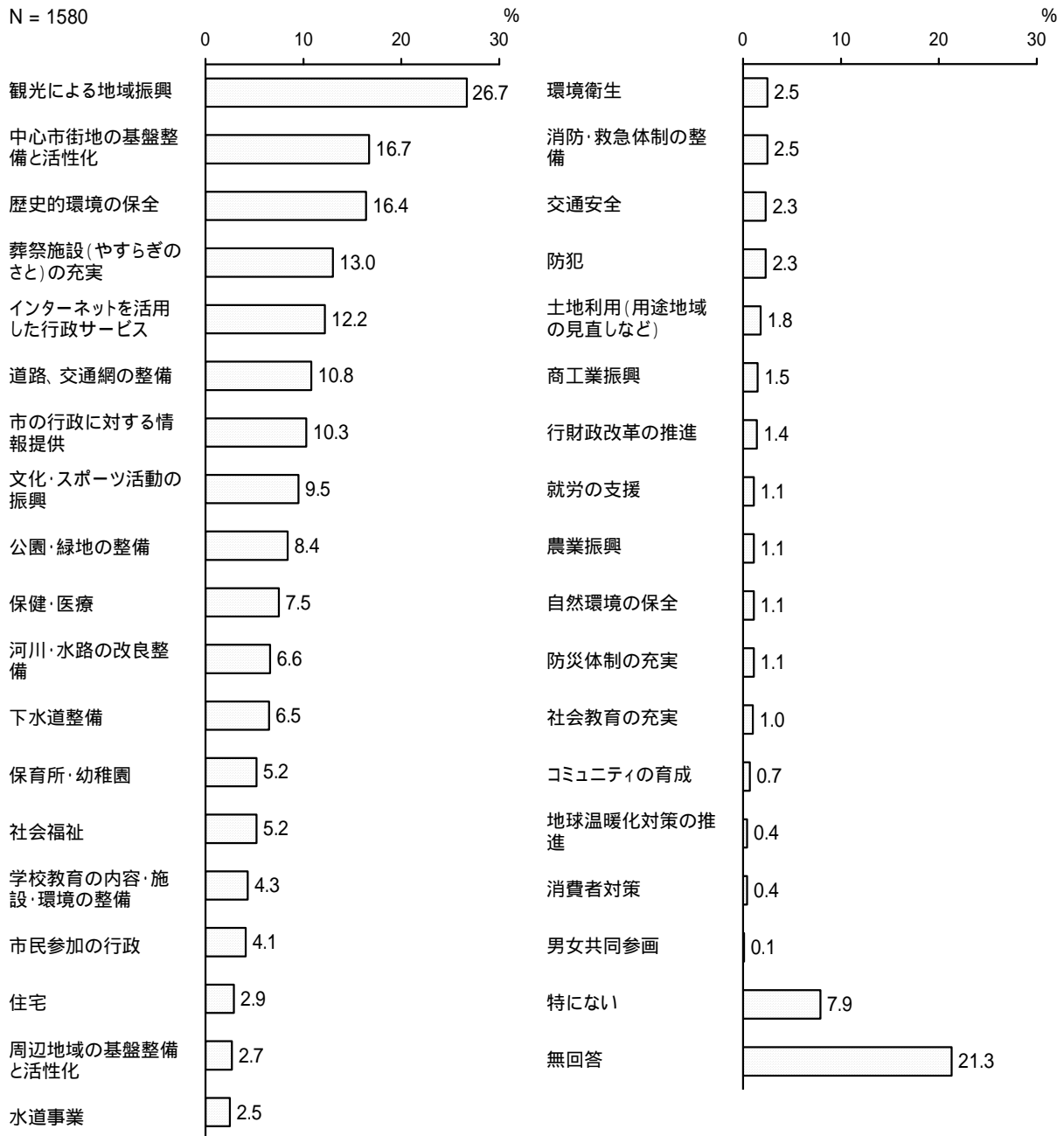
7 - 9 よくなってきた市の施策 / 力を入れるべき市の施策

(1) よくなってきた市の施策

「観光による地域振興」が26.7%

問54 市政全般について、よくなってきた施策、また、あなたが力を入れてほしい施策をそれぞれ3つずつ選んで回答欄に番号を記入してください。

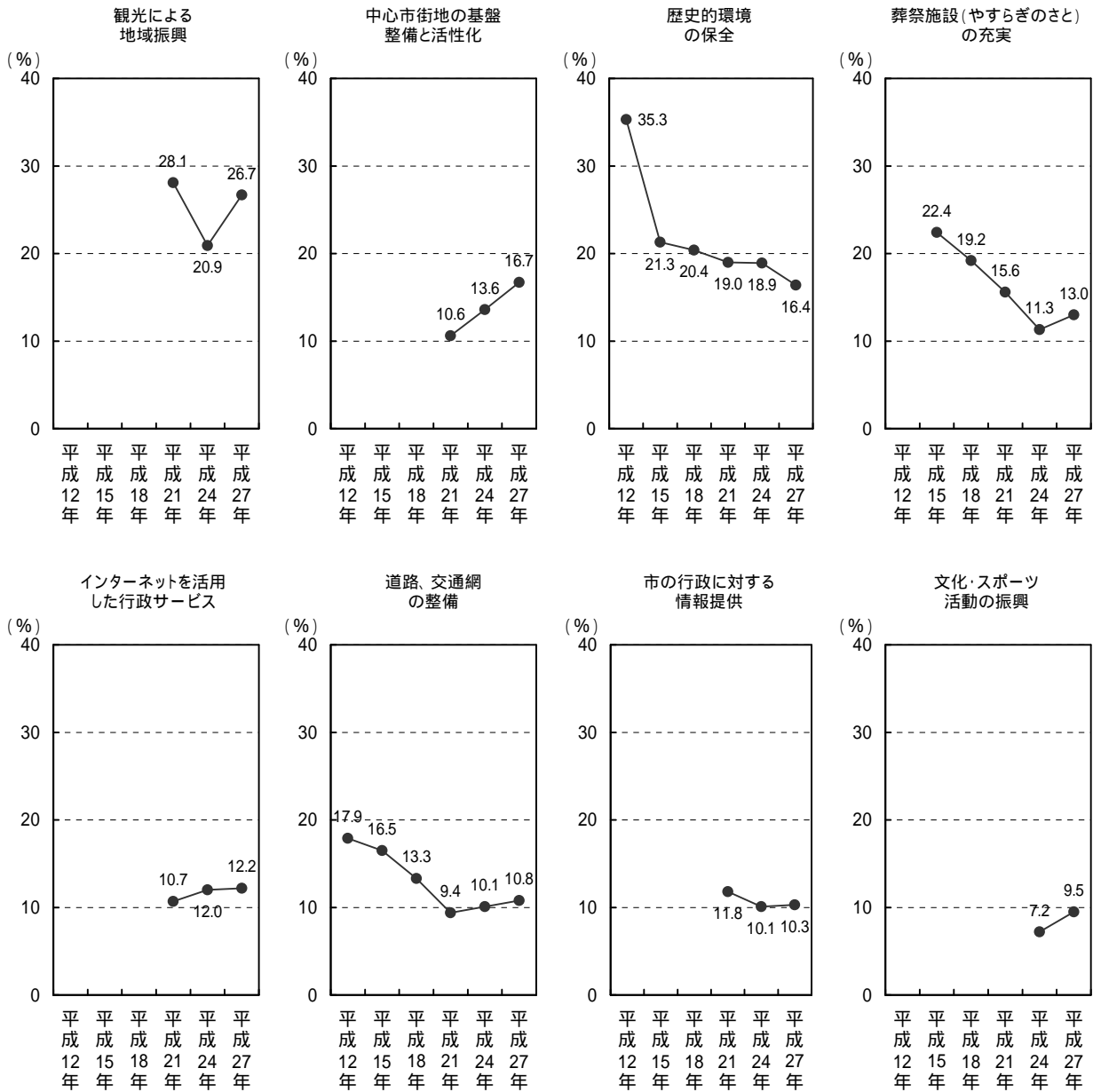
図7 - 9 - 1



よくなってきた市の施策をたずねたところ、「観光による地域振興」(26.7%)が最も多く、20%半ばとなっている。以下、「中心市街地の基盤整備と活性化」(16.7%)、「歴史的環境の保全」(16.4%)、「葬祭施設(やすらぎのさと)の充実」(13.0%)、「インターネットを活用した行政サービス」(12.2%)などの順となっている。(図7 - 9 - 1)

上位8項目について時系列でみると、平成21年調査で選択肢の追加・変更があったため平成18年調査以前との比較は参考にとどまるが、「観光による地域振興」は前回調査と比べて5.8ポイント、「中心市街地の基盤整備と活性化」は3.1ポイント増加している。一方、「歴史的環境の保全」は前回調査と比べて2.5ポイント減少している。(図7-9-2)

図7-9-2 時系列 よくなってきた市の施策



上位5項目を地区別にみると、「観光による地域振興」はすべての地区で第1位となっている。

(表7-9-1)

表7-9-1 地区別 よくなってきた市の施策

属性	順位	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1580	観光による地域振興 16.7%	中心市街地の基盤整備と活性化 12.2%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.0%	インターネットを活用した行政サービス 12.2%	道路、交通網の整備 10.8%
【地区別】							
本庁地区		362	観光による地域振興 29.0%	歴史的環境の保全 21.3%	中心市街地の基盤整備と活性化 20.7%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 14.1%	市の行政に対する情報提供 12.4%
芳野地区		42	観光による地域振興 / 歴史的環境の保全 21.4%		インターネットを活用した行政サービス / 特 にない 14.3%		学校教育の内容・施設・環境の整備 11.9%
古谷地区		66	観光による地域振興 24.2%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 21.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 16.7%	歴史的環境の保全 / インターネットを活用した行政サービス 12.1%	
南古谷地区		120	観光による地域振興 32.5%	中心市街地の基盤整備と活性化 17.5%	歴史的環境の保全 15.0%	保健・医療 / 市の行政に対する情報提供 11.7%	
高階地区		210	観光による地域振興 24.3%	歴史的環境の保全 19.0%	中心市街地の基盤整備と活性化 16.7%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 15.2%	市の行政に対する情報提供 13.8%
福原地区		81	観光による地域振興 22.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 21.0%	道路、交通網の整備 19.8%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 16.0%	河川・水路の改良整備 12.3%
大東地区		147	観光による地域振興 21.1%	中心市街地の基盤整備と活性化 18.4%	道路、交通網の整備 / インターネットを活用した行政サービス 13.6%		公園・緑地の整備 12.2%
霞ヶ関地区		189	観光による地域振興 30.2%	歴史的環境の保全 13.8%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.2%	インターネットを活用した行政サービス / 文化・スポーツ活動の振興 12.7%	
川鶴地区		85	観光による地域振興 30.6%	インターネットを活用した行政サービス 21.2%	歴史的環境の保全 / 公園・緑地の整備 17.6%		中心市街地の基盤整備と活性化 15.3%
霞ヶ関北地区		66	観光による地域振興 21.2%	歴史的環境の保全 / 公園・緑地の整備 / 文化・スポーツ活動の振興 15.2%			インターネットを活用した行政サービス / 中心市街地の基盤整備と活性化 / 道路、交通網の整備 10.6%
名細地区		96	観光による地域振興 29.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 18.8%	歴史的環境の保全 17.7%	インターネットを活用した行政サービス 15.6%	道路、交通網の整備 / 保健・医療 / 市の行政に対する情報提供 12.5%
山田地区		76	観光による地域振興 31.6%	歴史的環境の保全 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 21.1%		インターネットを活用した行政サービス / 道路、交通網の整備 / 下水道整備 14.5%	

上位5項目を性別にみると、「歴史的環境の保全」は男性(18.6%・第2位)が女性(14.9%・第3位)より3.7ポイント高くなっている。また、「葬祭施設(やすらぎのさと)の充実」は男性(15.4%・第4位)が女性(11.4%・第5位)より4.0ポイント高くなっている。

上位5項目を性・年齢別にみると、「観光による地域振興」は男性の40歳以上、女性の20歳代から60歳代の年代で第1位となっている。「歴史的環境の保全」は男性30歳代で第1位となっている。「市の行政に対する情報提供」は女性70歳以上で第1位となっている。

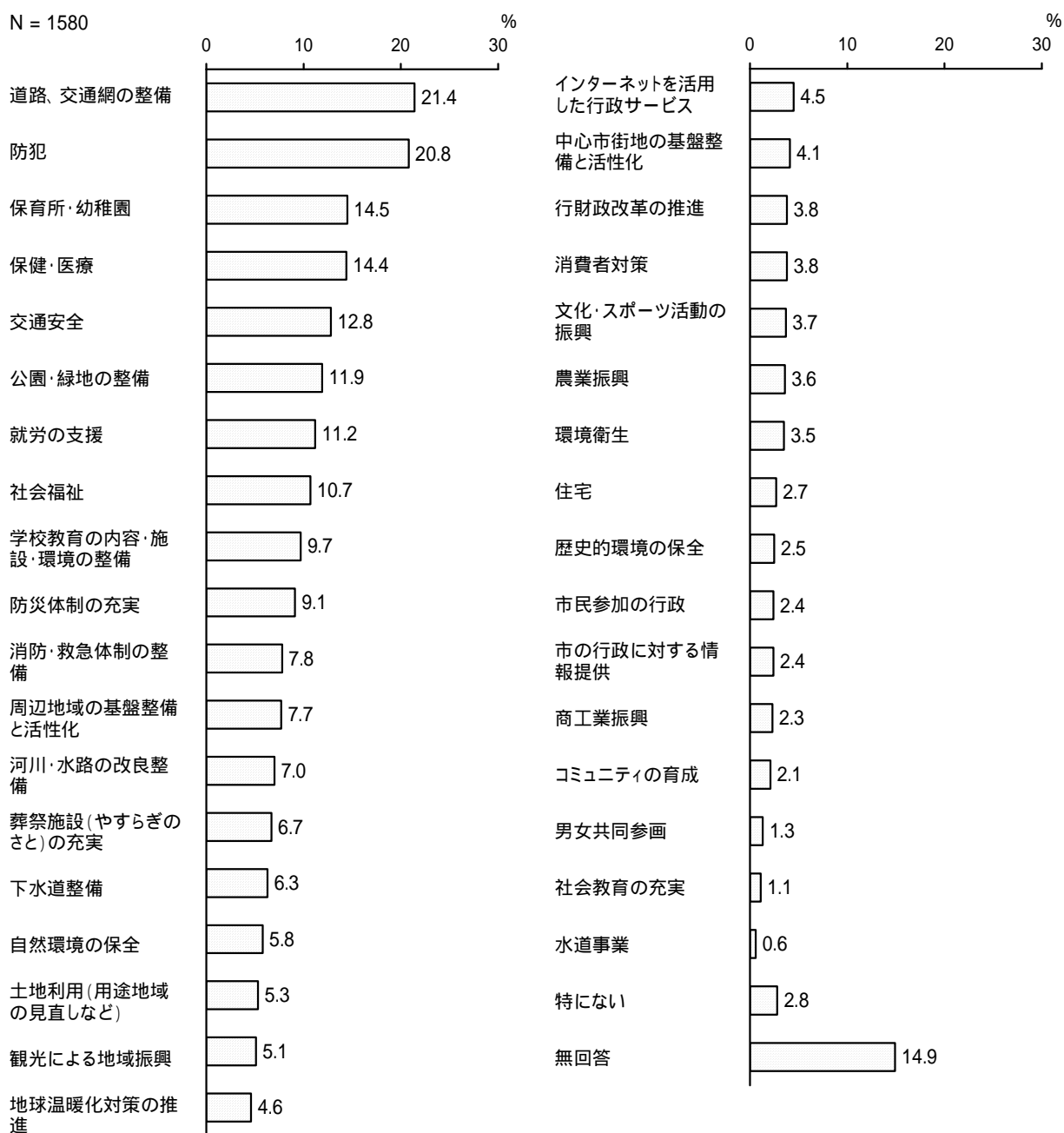
(表7-9-2)

表7-9-2 性・年齢別 よくなってきた市の施策

順位 属性	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1580	観光による地域振興 16.7%	中心市街地の基盤整備と活性化 12.2%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.0%	インターネットを活用した行政サービス 12.2%	道路、交通網の整備 10.8%
【性・年齢別】						
男性	682	観光による地域振興 26.1%	歴史的環境の保全 18.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 16.3%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 15.4%	道路、交通網の整備 14.8%
女性	880	観光による地域振興 27.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 17.4%	歴史的環境の保全 14.9%	インターネットを活用した行政サービス 11.6%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 11.4%
男性 18・19歳	9	観光による地域振興 44.4%	インターネットを活用した行政サービス 33.3%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 歴史的環境の保全 / 公園・緑地の整備 / 学校教育の内容・施設・環境の整備		22.2%
20歳代	64	特にない 25.0%	観光による地域振興 / インターネットを活用した行政サービス 18.8%		文化・スポーツ活動の振興 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 12.5%	
30歳代	77	歴史的環境の保全 22.1%	観光による地域振興 / 道路、交通網の整備 20.8%		中心市街地の基盤整備と活性化 16.9%	特にない 14.3%
40歳代	138	観光による地域振興 29.7%	中心市街地の基盤整備と活性化 21.7%	歴史的環境の保全 18.1%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 15.2%	インターネットを活用した行政サービス 14.5%
50歳代	99	観光による地域振興 33.3%	歴史的環境の保全 24.2%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 / インターネットを活用した行政サービス 19.2%		道路、交通網の整備 17.2%
60歳代	152	観光による地域振興 26.3%	歴史的環境の保全 21.1%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 / 道路、交通網の整備 / 中心市街地の基盤整備と活性化 18.4%		
70歳以上	143	観光による地域振興 22.4%	市の行政に対する情報提供 16.8%	歴史的環境の保全 14.7%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 14.0%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.3%
女性 18・19歳	6	特にない 33.3%	観光による地域振興 / 歴史的環境の保全 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 / 中心市街地の基盤整備と活性化 / 道路、交通網の整備 / 文化・スポーツ活動の振興 / インターネットを活用した行政サービス / 学校教育の内容・施設・環境の整備 16.7%			
20歳代	86	観光による地域振興 24.4%	特にない 22.1%	中心市街地の基盤整備と活性化 20.9%	歴史的環境の保全 / インターネットを活用した行政サービス 11.6%	
30歳代	151	観光による地域振興 34.4%	中心市街地の基盤整備と活性化 17.2%	歴史的環境の保全 13.9%	インターネットを活用した行政サービス / 公園・緑地の整備 12.6%	
40歳代	166	観光による地域振興 30.7%	インターネットを活用した行政サービス 15.7%	歴史的環境の保全 15.1%	中心市街地の基盤整備と活性化 14.5%	道路、交通網の整備 10.8%
50歳代	112	観光による地域振興 32.1%	中心市街地の基盤整備と活性化 23.2%	歴史的環境の保全 15.2%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.4%	インターネットを活用した行政サービス 12.5%
60歳代	200	観光による地域振興 30.5%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 歴史的環境の保全 18.5%		葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 16.0%	市の行政に対する情報提供 14.0%
70歳以上	158	市の行政に対する情報提供 16.5%	観光による地域振興 / 中心市街地の基盤整備と活性化 13.3%		歴史的環境の保全 12.7%	保健・医療 12.0%

(2) 力を入れるべき施策

図 7 - 9 - 3

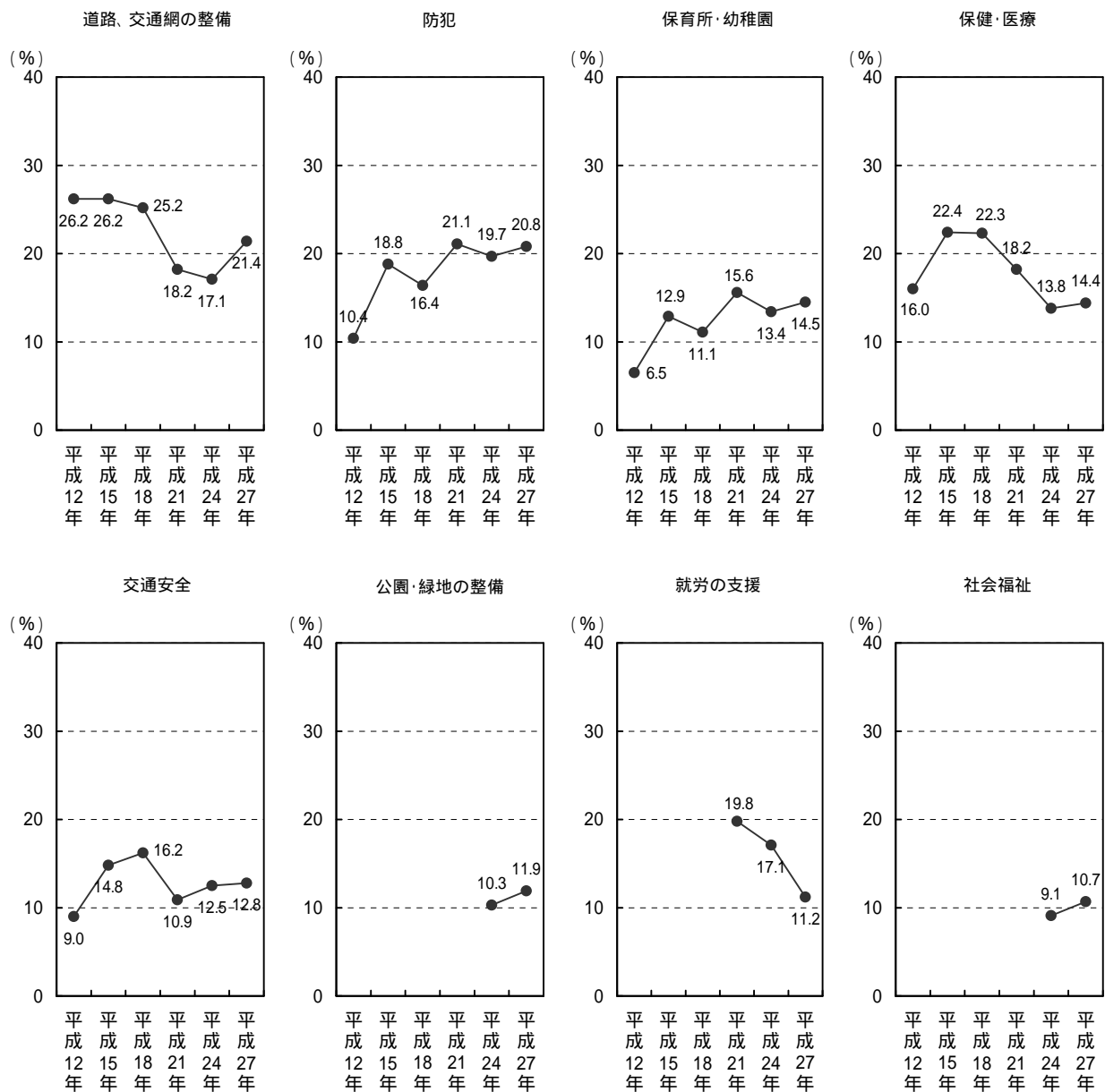


力を入れるべき市の施策をたずねたところ、「道路、交通網の整備」(21.4%)が最も多く、以下、「防犯」(20.8%)、「保育所・幼稚園」(14.5%)、「保健・医療」(14.4%)、「交通安全」(12.8%)などの順となっている。(図 7 - 9 - 3)

上位8項目について時系列でみると、平成21年調査で選択肢の追加・変更があったため平成18年調査以前との比較は参考にとどまるが、「道路、交通網の整備」は前回調査と比べて4.3ポイント増加している。一方、「就労の支援」は前回調査と比べて5.9ポイント減少している。

(図7-9-4)

図7-9-4 時系列 力を入れるべき市の施策



上位5項目を地区別にみると、「道路、交通網の整備」は芳野地区、南古谷地区、高階地区、霞ヶ関地区、霞ヶ関北地区、名細地区、山田地区で第1位となっている。「防犯」は本庁地区、福原地区、大東地区で第1位となっている。(表7-9-3)

表7-9-3 地区別 力を入れるべき市の施策

属性	順位	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1580	道路、交通網の整備 21.4%	防犯 20.8%	保育所・幼稚園 14.5%	保健・医療 14.4%	交通安全 12.8%
【地区別】							
本庁地区		362	防犯 22.1%	道路、交通網の整備 21.8%	公園・緑地の整備 17.1%	交通安全 14.4%	保健・医療 13.8%
芳野地区		42	道路、交通網の整備 31.0%	防犯 23.8%	保健・医療 / 防災体制の充実 / インターネットを活用した行政サービス / 農業振興 / 下水道整備		11.9%
古谷地区		66	下水道整備 / 学校教育の内容・施設・環境の整備 18.2%	保育所・幼稚園 16.7%	保健・医療 / 交通安全		13.6%
南古谷地区		120	道路、交通網の整備 23.3%	河川・水路の改良整備 20.8%	防犯 20.0%	保健・医療 / 社会福祉	
高階地区		210	道路、交通網の整備 25.2%	防犯 20.5%	保育所・幼稚園 15.2%	交通安全 13.8%	公園・緑地の整備 13.3%
福原地区		81	防犯 28.4%	道路、交通網の整備 22.2%	保健・医療 17.3%	交通安全 / 公園・緑地の整備	
大東地区		147	防犯 23.8%	交通安全 19.7%	道路、交通網の整備 18.4%	保育所・幼稚園 15.0%	社会福祉 12.9%
霞ヶ関地区		189	道路、交通網の整備 23.3%	防犯 20.1%	保健・医療 16.4%	保育所・幼稚園 13.8%	社会福祉 / 就労の支援 12.2%
川鶴地区		85	防犯	保健・医療 / 保育所・幼稚園 20.0%		公園・緑地の整備 10.6%	道路、交通網の整備 / 周辺地域の基盤整備と活性化 / 消防・救急体制の整備 / 交通安全 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 / 自然環境の保全 9.4%
霞ヶ関北地区		66	道路、交通網の整備 24.2%	防犯 21.2%	保健・医療 / 就労の支援 19.7%		保育所・幼稚園 15.2%
名細地区		96	道路、交通網の整備 24.0%	保育所・幼稚園 19.8%	防犯 18.8%	交通安全 15.6%	保健・医療 / 下水道整備 14.6%
山田地区		76	道路、交通網の整備 21.1%	公園・緑地の整備 19.7%	防犯 17.1%	下水道整備 15.8%	保育所・幼稚園 / 就労の支援 14.5%

上位5項目を性別にみると、「防犯」は女性（22.6％・第1位）が男性（18.8％・第2位）より3.8ポイント高くなっている。また、「保育所・幼稚園」は女性（16.6％・第3位）が男性（12.2％・第5位）より4.4ポイント高くなっている。

上位5項目を性・年齢別にみると、「道路、交通網の整備」は男性の18・19歳、20歳代、40歳代、50歳代、女性の70歳以上の年代で第1位、男性70歳以上で同率第1位となっている。「防犯」は女性40歳代、50歳代、60歳代で第1位、男性70歳以上で同率1位となっている。「保育所・幼稚園」は男性30歳代、女性20歳代、30歳代で第1位となっている。（表7-9-4）

表7-9-4 性・年齢別 力を入れるべき市の施策

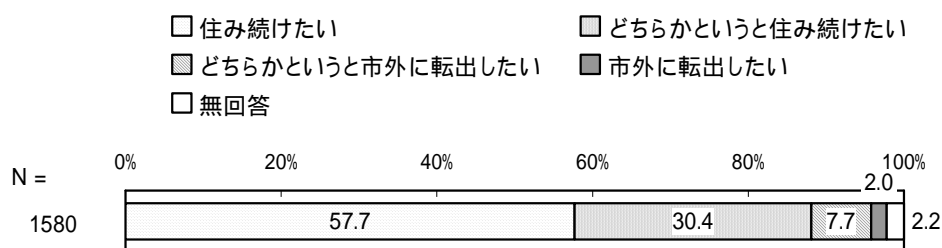
順位 属性	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1580	道路、交通網の整備 21.4%	防犯 20.8%	保育所・幼稚園 14.5%	保健・医療 14.4%	交通安全 12.8%
【性・年齢別】						
男性	682	道路、交通網の整備 23.2%	防犯 18.8%	交通安全 14.8%	保健・医療 13.5%	保育所・幼稚園 12.2%
女性	880	防犯 22.6%	道路、交通網の整備 20.3%	保育所・幼稚園 16.6%	保健・医療 15.3%	公園・緑地の整備 13.0%
男性18・19歳	9	道路、交通網の整備 55.6%	周辺地域の基盤整備と活性化 33.3%	防犯 / 公園・緑地の整備 / 就労の支援 / 交通安全 / 文化・スポーツ活動の振興 22.2%		
20歳代	64	道路、交通網の整備 29.7%	就労の支援 20.3%	防犯 / 保育所・幼稚園 18.8%		交通安全 12.5%
30歳代	77	保育所・幼稚園 26.0%	防犯 20.8%	公園・緑地の整備 19.5%	道路、交通網の整備 18.2%	学校教育の内容・施設・環境の整備 14.3%
40歳代	138	道路、交通網の整備 28.3%	防犯 24.6%	交通安全 13.8%	保健・医療 13.0%	公園・緑地の整備 / 防災体制の充実 / インターネットを活用した行政サービス・就労の支援 11.6%
50歳代	99	道路、交通網の整備 33.3%	保健・医療 19.2%	交通安全 18.2%	防犯 / 就労の支援 15.2%	
60歳代	152	社会福祉 18.4%	交通安全 17.8%	保健・医療 / 防犯 16.4%		道路、交通網の整備 15.8%
70歳以上	143	防犯 / 道路、交通網の整備 16.8%		防災体制の充実 13.3%	交通安全 11.9%	社会福祉 / 保健・医療 / 周辺地域の基盤整備と活性化 11.2%
女性18・19歳	6	防犯 / 保健・医療 / 特になし 33.3%			防災体制の充実 / 交通安全 / 自然環境の保全 / 公園・緑地の整備 / 河川・水路の改良整備 / 保育所・幼稚園 / 土地利用(用途地域の見直しなど) / 住宅 16.7%	
20歳代	86	保育所・幼稚園 26.7%	防犯 24.4%	交通安全 / 公園・緑地の整備 18.6%		保健・医療 / 道路、交通網の整備 15.1%
30歳代	151	保育所・幼稚園 33.1%	道路、交通網の整備 29.1%	防犯 23.8%	公園・緑地の整備 / 学校教育の内容・施設・環境の整備 19.9%	
40歳代	166	防犯 27.7%	道路、交通網の整備 21.7%	学校教育の内容・施設・環境の整備 17.5%	保健・医療 16.9%	就労の支援 15.1%
50歳代	112	防犯 28.6%	道路、交通網の整備 17.0%	就労の支援 17.0%	社会福祉 14.3%	保育所・幼稚園 / 交通安全 13.4%
60歳代	200	防犯 23.0%	道路、交通網の整備 20.5%	保健・医療 18.0%	就労の支援 15.5%	保育所・幼稚園 14.0%
70歳以上	158	道路、交通網の整備 16.5%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 12.0%	公園・緑地の整備 / 河川・水路の改良整備 10.8%	防犯 / 保健・医療 / 消防・救急体制の整備 10.1%	

7 - 10 市への定住意向

<住み続けたい>が88.1%

問 55 あなたは、これからもずっと川越市に住み続けたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(は1つ)

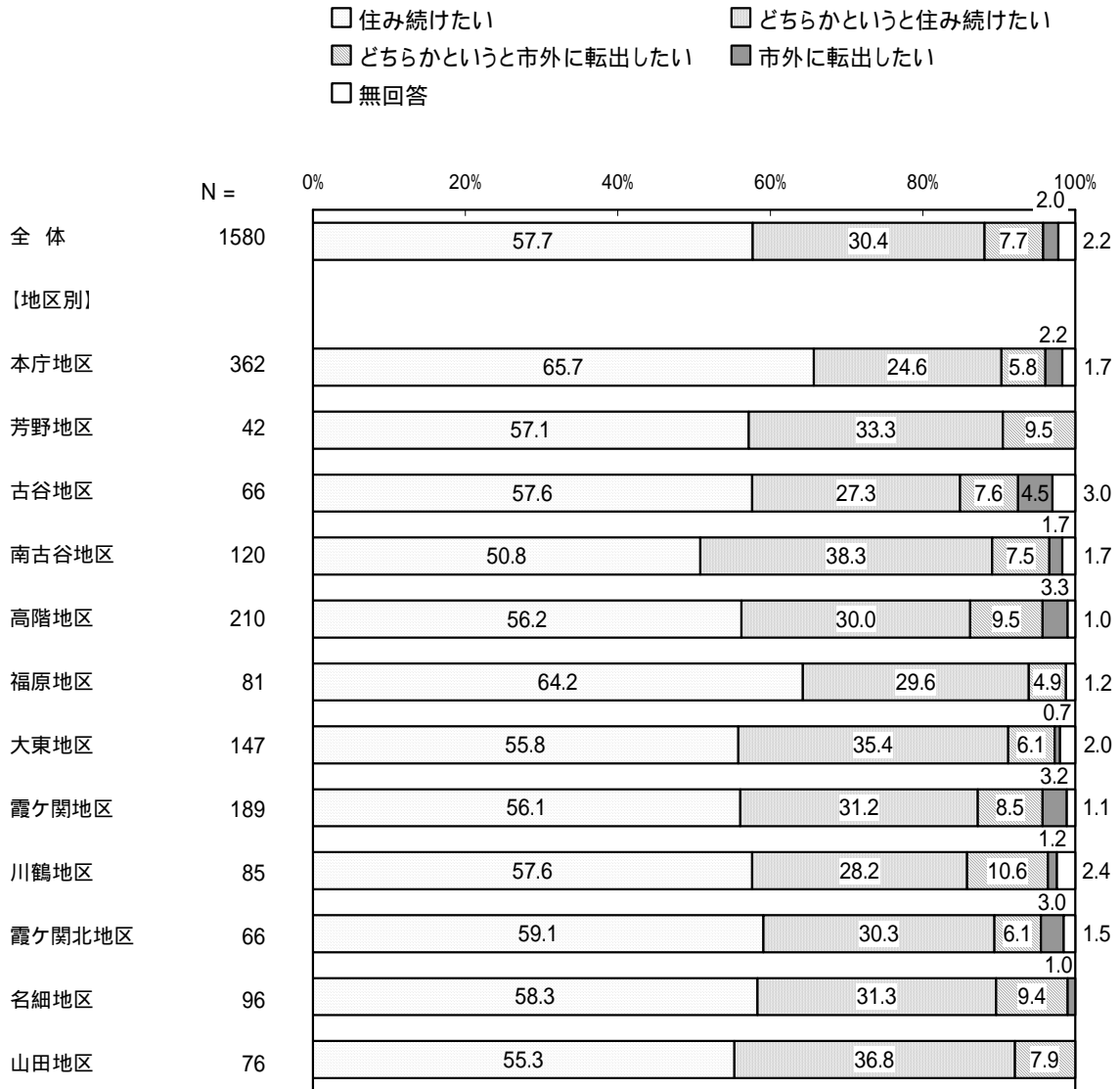
図 7 - 10 - 1



市への定住意向をたずねたところ、「住み続けたい」(57.7%)と「どちらかというに住み続けたい」(30.4%)を合わせた<住み続けたい>(88.1%)が90%近くとなっている。「どちらかという和市外に転出したい」(7.7%)と「市外に転出したい」(2.0%)を合わせた<転出したい>(9.7%)は10%未満となっている。(図7 - 10 - 1)

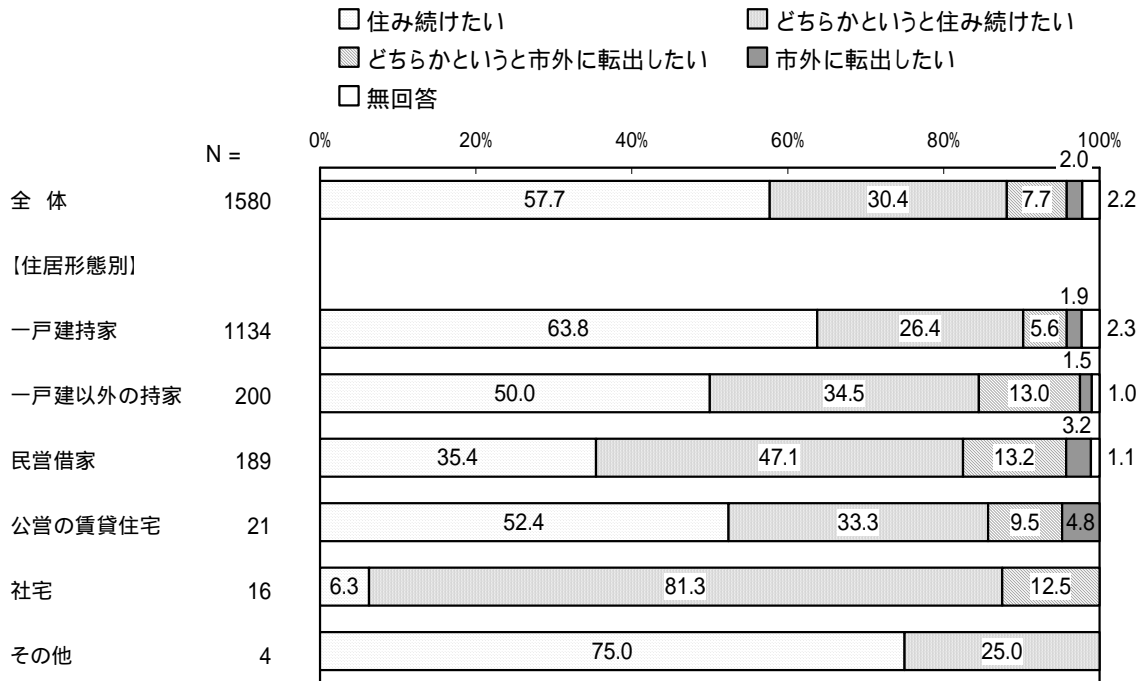
地区別にみると、<住み続けたい>はすべての地区で80%を超えており、特に本庁地区、芳野地区、福原地区、大東地区、山田地区で90%を超えている。(図7-10-2)

図7-10-2 地区別 市への定住意向



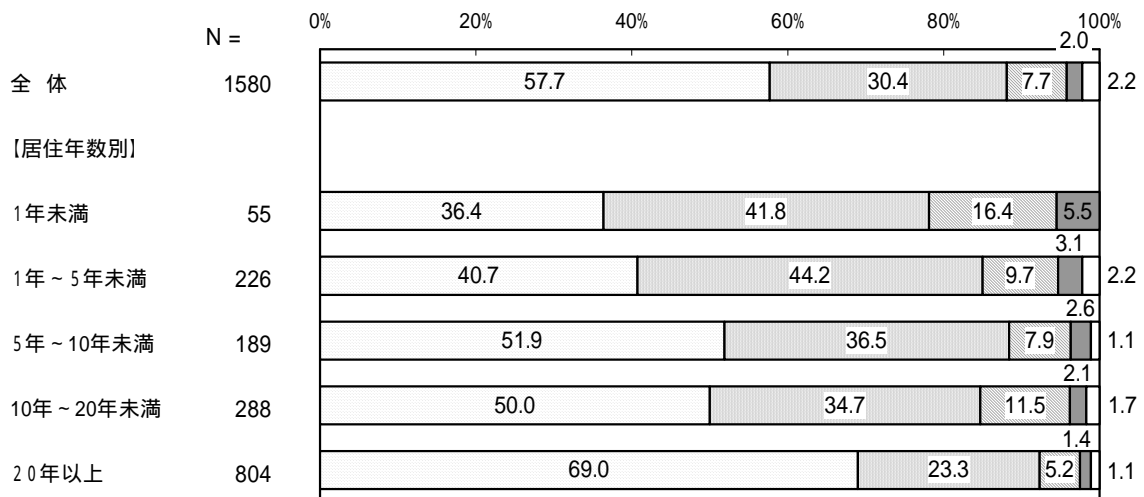
住居形態別にみると、<住み続けたい>はすべての居住形態で80%を超えており、特に一戸建持家で90%を超えている。(図7-10-3)

図7-10-3 住居形態別 市への定住意向



居住年数別にみると、<住み続けたい>は20年以上居住している人が90%を超えている。また、<転出したい>は1年未満が20%を超えている。(図7-10-4)

図7-10-4 住居年数別 市への定住意向

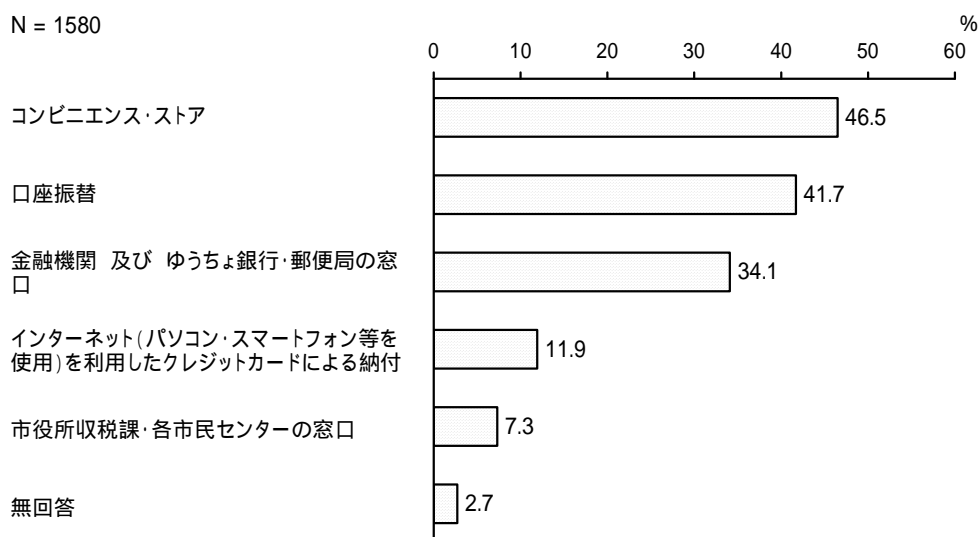


7 - 11 希望する市税納付方法

「コンビニエンス・ストア」が46.5%

問 56 あなたが市税（国民健康保険税を含む）を納める方法として希望するのは次のどれですか。次の中からあてはまるものを2つ選んでください。（ は2つ以内）

図 7 - 11 - 1



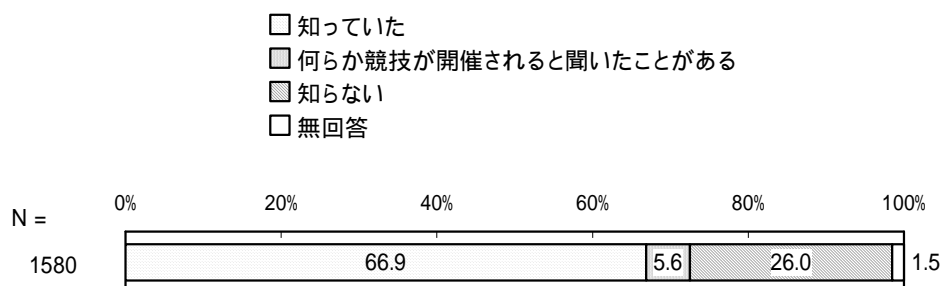
希望する市税納付方法をたずねたところ、「コンビニエンス・ストア」(46.5%)が最も多く40%半ばとなっている。以下、「口座振替」(41.7%)、「金融機関 及び ゆうちょ銀行・郵便局の窓口」(34.1%)、「インターネット(パソコン・スマートフォン等を使用)を利用したクレジットカードによる納付」(11.9%)、「市役所収税課・各市民センターの窓口」(7.3%)の順となっている。(図7 - 11 - 1)

7 - 12 東京オリンピック・パラリンピックのゴルフ競技の認知度

「知っていた」が66.9%

問57 2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(は1つ)
あなたは、川越市でゴルフ競技が開催される予定であることを知っていますか。

図7 - 12 - 1



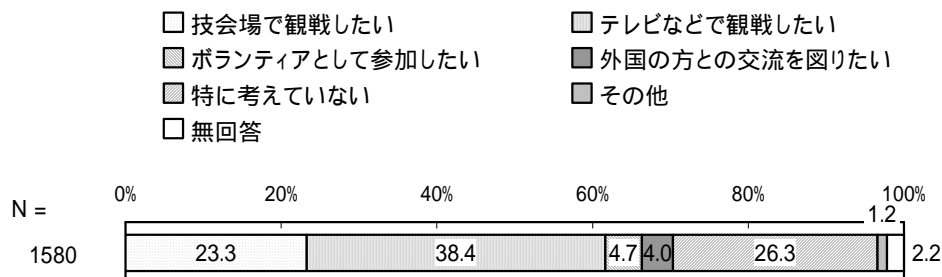
東京オリンピック・パラリンピックのゴルフ競技の認知度をたずねたところ、「知っていた」(66.9%)が60%半ばとなっている。「知らない」(26.0%)は20%半ば、「何らかの競技が開催されると聞いたことがある」(5.6%)は10%未満となっている。(図7 - 12 - 1)

7 - 13 東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方

「テレビなどで観戦したい」が38.4%

あなたは、東京オリンピックにはどのような形で関わりたいですか。

図7 - 13 - 1



東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方をたずねたところ、「テレビなどで観戦したい」(38.4%)が最も多く、40%近くとなっている。以下、「特に考えていない」(26.3%)、「技会場で観戦したい」(23.3%)、「ボランティアとして参加したい」(4.7%)、「外国の方との交流を図りたい」(4.0%)の順となっている。(図7 - 13 - 1)